科目区分：芸術文化課程・音楽文化コース
授業科目名：ソルフェージュ
対象年次：２年次（10 名受講）

ソルフェージュ

音楽教育講座・安積京子

１．授業の目的と到達目標

本授業は中・高の音楽の教員免許に必要な科目である。楽譜を読んで音をイメージし、実際の演奏に結びつけるための基礎的な音楽能力を養うことを目的とする。聴音、視唱、読譜に加え、音楽の基礎知識（楽典）の学習にも取り組む。

到達目標は、以下の２つである。

○ 演奏された音楽の音程、リズムなどを識別する聴音能力と、正確に楽譜に書き表す記譜能力を身につける。
○ 小・中学校教材程度の簡易な楽曲をデュナーミク、テンポ、表情記号などの楽譜に示された音楽情報を正確に読み取って表現できる。

２．授業の概要について

本授業は、芸術文化課程音楽文化コース２年生を対象に開講されている。今期の受講生は10名である。ピアノの演奏経験は多いが、ソルフェージュの基礎能力が身に付いていない学生が多かったため、各々の実習課題を基礎レベルから始め、徐々に応用へ発展させていった。

３．関連するディプロマポリシー

１）充実した生涯学習社会を築くため、音楽文化に関する確かで幅広い知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。(知識・理解)

２）地域社会における音楽文化振興に貢献するために，高い演奏技能と豊かな音楽的表現力を身につけている。（技能・表現）

４．授業の課題について

○聴音による課題は、主に旋律聴音、四声体聴音を取り上げた。旋律聴音においては、様々な拍子で、調号３つまで（ハ長調・ト長調・ニ長調・ヘ長調・変ロ長調・イ短調・ホ短調・ロ短調・ニ短調・ト短調）による、8～12 小節の課題を出題した。四声体聴音においては、ハ長調を中心に転調を含む課題を出題した。

○視唱のテキストは、『コールユーブンゲン』（著者：フランツ・ヴユルナー、訳者：鏑木欽作・高木卓）を使用し実践演習を行った。

○リズム読譜は、『新版 音楽家の基礎練習』（著：パウル・ヒンデミット、訳：千蔵八郎）のテキストより抜粋し、基礎から応用まで幅広いレベルの課題を取り上げた。

○楽典においては、調関係の応用編の他、強弱・速度・奏法・発想を示す用語を原語と日本語で正確に記載できるようにした。

５．指導上のポイント

１）聴音に関して

毎回の授業において、聴音課題を行った後に各自が記譜した楽譜を見ながらピアノで演奏発表させた。その後に記譜の間違いを訂正させる等、一人一人に丁寧な個別指導を心がけた。また進度の速い学生には、聴音した旋律に伴奏付けをさせる応用課題を与えた。

２）視唱に関して

受講生全員でピアノを囲み、毎回約 20 分間行った。初見が得意な学生たちにピアノ伴奏を担当させ、同時に初見の指導も行った。

３）リズム読譜に関して

手と足を同時に使用するリズム読譜を数名のグループごとに分けて練習させ、その後発表をさせた。各グループを競い合わせ、間違えたグループから座らせて行くゲームを含めたこの課題は、毎回学生の反応が大変良く、楽しみながら積極的に取り組む様子が伺えた。

４）楽典に関して

重要な音楽用語のみ取り上げ、全員に順番に板書させた。復習を中心に行うことにより、原語の綴りを正確に暗記させることを徹底した。

６．授業アンケート

本授業終了時に、受講者 10 名を対象に無記名方式で、下記の 8 項目の 4 段階評価によるアンケートを実施した。また自由記述も併用した。

１）集計結果について

1.本授業に興味を持ち積極的に参加出来たか。
出来た　9 名
どちらかといえば出来た　1 名
どちらかといえば出来なかった　0 名
出来なかった　0 名

2.本授業のための準備は毎回充分であったか。
充分であった　4 名
どちらかといえば充分であった　5 名
どちらかといえば充分でなかった　1 名
充分でなかった　0 名

3.出席状況は良好であったか。
良好であった　7 名
どちらかといえば良好であった　1 名
どちらかといえば良好でなかった　1 名
良好でなかった　1 名

4.授業課題の量は適切であったか。
適切であった　7 名
どちらかというと適切であった　3 名
どちらかというと適切でなかった　0 名
適切でなかった　0 名

5.授業の難易度は適切であったか。
適切であった　7 名
どちらかといえば適切であった　3 名
どちらかといえば適切でなかった　0 名
適切でなかった　0 名

6.授業中は良好な雰囲気が保たれていたと思うか。
そう思う　8 名
どちらかといえばそう思う　2 名
どちらかといえばそう思わない　0 名
そう思わない　0 名

7.受講後、新しい専門知識や演奏技術を得ることができたと思うか。
そう思う　7 名
どちらかといえばそう思う　2 名
どちらかといえばそう思わない　1 名
そう思わない　0 名

8.本授業を受講したことが、今後の学習に有意義であると思われるか。
そう思う　10 名
どちらかといえばそう思う　0 名
どちらかといえばそう思わない　0 名
そう思わない　0 名

9.本授業で良かった点（自由記述より抜粋）
○楽しく明るい授業であった。
○積極的に発言､行動できる雰囲気であった。
○初見の練習の機会を得られた。
○実践的に学ぶことが多かった点が良かった。
○良いスピード感で集中して授業に取り組めた。

10.本授業で改善すべき点（自由記述より抜粋）
○授業進度が速かった。
○もう少し難しい課題もしてみたかった。
○個人のペースが違うため、課題を終えた後の待ち時間が長かった。
○個別指導の時間の長さに偏りがあった。

２）アンケート結果のまとめ

授業準備に関しては、どちらかといえば充分でなかった学生が多い。授業課題の量と難易度は適切であったという回答が多かった。受講後、全員が新しい専門知識や演奏技術を得ることができ、また今後の学習に有意義であったと回答している。

７．授業時間外学習の促進について

「H27 後期 DP 対応学生認識調査・ソルフェージュ」（受講 10 名､回答 9 名､回答率 90%）により、授業時間外学習の平均時間が 0.39 時間と算出された。（内訳は、2 時間が 1 名、0.5 時間が 3 名、0 時間が 5 名である。）この授業時間外学習時間は予想よりはるかに少なかった。毎回の授業で新しい課題が与えられ実践を行うため､授業準備は必須ではないが、実践演習の反復（復習）は非常に大切である。

今後の課題として､授業時間外学習（予習・復習）の重要さを指導するとともに、主体的に学ぶ姿勢を持たせるためのプログラムを再検討したい。